

**アクセント**

(1) 見出し語のうち、現代語および現代でも使用されることのある語にアクセントを示した。ただし、方言、古語、人名・地名・作品名などのいわゆる固有名詞、仏教その他特殊な専門分野の用語、および付属語には原則として示さなかった。また、二語以上の要素から成る語で一語化の度合が薄く、それぞれの構成要素のアクセントから類推できると思われる語にも示さなかったものが多い。

(2) 本辞典で示したアクセントは、現在テレビ・ラジオなどで用いられている全国共通語のアクセントである。

(3) アクセントは単語ごとに、高く発音される部分から低く発音される部分へ移る境目の音が何番目の音であるかを①②③…によって示した。低くならない語は④と示した。動詞・形容詞など活用する語は、見出し語としての終止形のアクセントのみを示した。また「十人十色」(ジューニン・トイロ)(傍線の部分を高く発音する)などのように、一つの見出し語に二つのアクセントの単位を含むものは①①のように示した。

《日本語のアクセントの型》

日本語のアクセントは、単語を発音するときに、その単語の中の個々の「拍」を高く発音するか低く発音するかによって決まる。「拍」というのは日本語の音の長さの単位で、下図の例でいえば、カタカナが一字で一拍、「シャ・チュ・キョ」などの拗音は二字で一拍である。現在、東京の言葉を基盤として日本全国で共通に使われている「全国共通語」では、アクセントの種類は、語の拍数によって決まっている。

アクセントの種類は大きく「平板式」と「起伏式」とに分けられる。下図で◎を含むものが起伏式、含まないものが平板式である。●と◎がその語に含まれる個々の拍、○はその語に続いて発音される助詞などである。

共通語ではすべての単語において、一拍目と二拍目との間に音の高低の変化がある。

平板式は、二拍目で高くなったあと、高低の変化がなく、アクセントは一種類だけである。起伏式は、◎の直後で音が低くなり、以下に続く部分には音の高低の変化がない。起伏式をさらに細かく分けるときは、①を「頭高型」といい、二拍語の②、三拍語の③など、単語の最後の拍に◎があるものを「尾高型」、その他の起伏式のアクセントを「中高型」という。

動詞・形容詞など「活用のある語」は、活用形によってアクセントが変わる。文節の形や活用形ときのアクセントは、次ページの例を参照されたい。

図 日本語のアクセントの型

	平板式		起伏式			
	①	②	中高型・尾高型 (■)			
			③	④	⑤	⑥
一拍語	ナ名	キ木				
二拍語	ミス水	アキ秋	ハナ花			
三拍語	カイシャ会社	デンキ電気	オカシお菓子	オトコ男		
四拍語	ダイガク大学	ブンガク文学	ユキグニ雪国	サイジキ歳時記	オトオト弟	
五拍語	チュウゴクゴ中国語	シャアベットシャーベット	フケウリツ普及率	ヤマノポリ山登り	コガタバス小型バス	モモノハナ桃の花
六拍語	ケンブツニン見物人	ケンモホロロけんもほろろ	オマワリサンお巡りさん	キンコンシキ金婚式	コクゴジテン国語辞典	タンサンガス炭酸ガス
						ジュウイチガツ十一月

- ① 平板式：二拍目で高くなってから高低の変化がない
- ② 起伏式・頭高型：一拍目だけ高く、あとは低い
- ③ 起伏式・中高(尾高)型：二拍目だけ高く、あとは低い
- ④ 起伏式・中高(尾高)型：二～四拍目が高く、あとは低い
- ⑤ 起伏式・中高(尾高)型：二～五拍目が高く、あとは低い
- ⑥ 起伏式・中高(尾高)型：二～六拍目が高く、あとは低い

【文節・活用形のアクセント例】

・本辞典では、現代語のほとんどの項目にアクセントを示してある。しかし、実際に発音されるときは、助詞・助動詞や接辞を伴ったり、活用形であったりすることが多い。ここでは文節の形や活用形の場合のアクセントのおもな例を掲げた。傍線は高く発音する部分であり、「」のところで下がることが示す。

平板式名詞「みず」〔水〕

- ミズサエ 水さえ
ミズシカ 水しか
ミズスラ 水すら
ミズダ 水だ
ミズダソノダ 水ださうだ
ミズダロー 水だらう
ミズデショ 水でしよう
ミズデス 水です
ミズデワ 水では
ミズナド 水など
ミズニハ 水には
ミズノ 水の
ミズバカリ 水ばかり
ミズマデ 水まで
ミズヨリ 水より

起伏式名詞「よる」〔夜〕

- ヨルサエ 夜さえ
ヨルシカ 夜しか
ヨルスラ 夜すら
ヨルダ 夜だ
ヨルダソノダ 夜ださうだ
ヨルダロー 夜だらう
ヨルデショ 夜でしよう
ヨルデス 夜です
ヨルデワ 夜では
ヨルナド 夜など
ヨルニハ 夜には
ヨルノ 夜の
ヨルバカリ 夜ばかり
ヨルマデ 夜まで

ヨルヨリ 夜より

平板式動詞「くらべる」〔比べる〕

- クラベ(クラベ) 比べ(連用形)
クラベサセル 比べさせる
クラベズライ 比べづらい
クラベタ 比べた
クラベタイ 比べたい
クラベタリ 比べたり
クラベテ 比べて
クラベナイ 比べない
クラベナガラ 比べながら
クラベニクイ 比べにくい
クラベマス 比べます
クラベヨ 比べよ
クラベヨ 比べよう
クラベラレル 比べられる
クラベル 比べる(終止形・連体形)
クラベルカラ 比べるから
クラベルケレド 比べるけれど
クラベルソノダ 比べるさうだ
クラベルダロー 比べるさうだ
クラベルデショ 比べるさうだ
クラベルナ 比べるな(禁止)
クラベルノデ 比べるので
クラベルホド 比べるほど
クラベルヨ 比べるようだ
クラベルラシイ 比べるらしい
クラベレバ 比べれば
クラベロ 比べろ
クラベワ 比べは(しない)

起伏式動詞「しらべる」〔調べる〕

- シラベ(調べ) 調べ(連用形)
シラベサセル 調べさせる
シラベズライ 調べづらい
シラベタ 調べた
シラベタイ 調べたい
シラベタリ 調べたり
シラベテ 調べて
シラベナイ 調べない

シラベナガラ 調べながら

- シラベニクイ 調べにくい
シラベマス 調べます
シラベヨ(シラベヨ) 調べよ
シラベヨ 調べよう
シラベラレル 調べられる
シラベル 調べる(終止形・連体形)
シラベルカラ 調べるから
シラベルケレド 調べるけれど
シラベルソノダ 調べるさうだ
シラベルダロー 調べるさうだ
シラベルデショ 調べるさうだ
シラベルナ 調べるな(禁止)
シラベルノデ 調べるので
シラベルホド 調べるほど
シラベルヨ 調べるようだ
シラベルラシイ 調べるらしい
シラベレバ 調べれば
シラベロ 調べろ
シラベワ 調べは(しない)

平板式形容詞「つめたい」〔冷たい〕

- ツメタイ(終止形・連体形)
ツメタイカラ 冷たいから
ツメタイケレド 冷たいけれど
ツメタイイシ 冷たいし
ツメタイソノダ 冷たいさうだ
ツメタイダロー 冷たいさうだ
ツメタイデショ 冷たいさうだ
ツメタイデス 冷たいです
ツメタイト 冷たいと
ツメタイナ 冷たいな
ツメタイノデ 冷たいので
ツメタイバカリ 冷たいばかり
ツメタイホド 冷たいほど
ツメタイヤラ 冷たいやら
ツメタイヨ 冷たいようだ
ツメタイラシイ 冷たいらしい
ツメタガッ 冷たかった
ツメタガル 冷たがる

ツメタカロー 冷たかろう

- ツメタク 冷たく(連用形)
ツメタクテ 冷たくて
ツメタクナイ 冷たくない
ツメタクワ 冷たくは
ツメタケ 冷たけ
ツメタケレバ 冷たければ
ツメタサ 冷たさ
ツメタソノダ 冷たさうだ

起伏式形容詞「うれしい」〔嬉しい〕

- ウレシイ(終止形・連体形)
ウレシイカラ 嬉しいから
ウレシイケレド 嬉しいけれど
ウレシイシ 嬉しいし
ウレシイソノダ 嬉しいさうだ
ウレシイダロー 嬉しいさうだ
ウレシイデショ 嬉しいさうだ
ウレシイデス 嬉しいです
ウレシイト 嬉しいと
ウレシINA 嬉しいな
ウレシIN 嬉しいの
ウレシINノデ 嬉しいので
ウレシINバカリ 嬉しいばかり
ウレシINホド 嬉しいほど
ウレシINヤラ 嬉しいやら
ウレシINヨ 嬉しいようだ
ウレシINラシイ 嬉しいらしい
ウレシICატ 嬉しかった
ウレシICガル 嬉しがる
ウレシICカロー 嬉しかろう
ウレシICクテ 嬉しくて
ウレシICナイ 嬉しくない
ウレシICハ 嬉しくは
ウレシICゲ 嬉しげ
ウレシICケレバ 嬉しければ
ウレシICサ 嬉しさ
ウレシINソノダ 嬉しさうだ